

第2表 皮膚温と不快指数との相関係数

被 検 者		額面皮膚温	指皮膚温
航海科	S	0.495	0.629
	T	0.643	0.682
機関科	HA	0.365	0.328
	HI	0.718	0.352
事務部	Ko	0.795	0.506
	KA	0.810	0.368

第3表 額面皮膚温と指皮膚温の相関係数の差

被 検 者		相関係数の差
航海科	S	51.2%
	T	83.0%
機関科	HA	86.0%
	HI	36.0%
事務部	Ko	9.2%
	KA	8.4%

July 1958

2) 神山恵三: 不快指数と体感温度との関係; (生

気候学に関する研究会), 天気, 第7巻, 第9号, 277頁, 1960

九州支部講演会について

日本気象学会九州支部講演会は春秋2回, 西部管区気象研究会と合同で開催されました。

昭和35年度秋季日本気象学会九州支部講演会

会期 昭和35年11月18日~19日

会場 福岡県筑紫郡筑紫野町教

職員組合保養所 紫泉荘

第1日(18日)午前9時~12時

順序	講演題目	所属	氏名	時間(分)
1	南九州における初動方向からみた近地地震域について	鹿児島	伊地知	20
2	台風移動の予報について	〃	長田 英二	10
3	圏界面付近の層厚分布と本邦付近を転向する台風の進路について	福岡	矢花 藤戸 飯塚	15
4	奄美群島に近接した台風についての調査	名瀬	福田 一也	15
5	レーダーの天気予報への利用法	福岡	植木, 黒岩	20
6	予報法則の探究(第5報)ゾーナル資料からみた1960年夏期の台風の動きについて	〃	植木, 八尋	20
7	山口県の降雨分布と地形について	下関	赤井 清康	15
8	200mb高度のZonal indexによる西日本夏季雨量の1か月予報(第2報)	山大	山本 武夫	10
9	秋芳洞の気象	〃	山本, 前田	7
10	史料を取扱う場合の問題点について	鹿児島	神原 健	20
第1日(18日)午後13時~17時				
11	岩国付近の turbulence について	板付	藤元 圀夫	15
12	阿蘇山の風について	熊本	岡部 成徳	15
13	700mb高度気温の24時間変化図の利用法	福岡	山田 三朗	20

14	850mb湿合比分布図と安定指数分布図の利用法	福岡	山田 三朗	20
15	長期予報調査(その1)北半球の気圧の谷について	〃	香原 信義	30
16	鹿児島における下層雲の高さについて	鹿児島	森 茂喜	10
17	発散の場の数値予報について	〃	岡村 存	20
18	南氷洋表層の研究	長崎	深瀬 茂	15
19	模型実験による有明海の潮汐に関する研究	〃	小泉, 藤木	30
20	台風中心とレインバンドのパターン(第2報)	種子島	大枝 良介	15
21	冬期の周期性降雨とレーダーエコーについて	名瀬	岡田 英二 伊集院	10

第2日(19日)午前9時~12時

22	局地豪雨について(第1報)	大分	笠村 幸男	20
23	宮崎県主要河川の洪水予報のための基礎調査	宮崎	都成与是夫	15
24	降水量の積算効果からみた水害および雨に関する注意報, 警報の基準について(防災調査第1報)	福岡	岡 千束	20
25	霧島火山史の一調査について	宮崎	安井, 長友	10
26	南九州の地鳴と震源距離の関係について	〃	〃 山形	10
27	日向灘の地震津波について	〃	〃 田辺	10
28	東海の高況と九州地方の気候との関連について(第1報)	長崎	加藤 威夫	20
29	福岡の季節の分類について	福岡	坂田 勝茂	20
30	外挿法による1月予報の試み	熊本	真島 善雄	20

昭和35年度春期日本気象学会九州支部講演会

会期 5月26, 27日 会場 雲仙公園県営国民宿舎

講演題目 第1日(26日)午前8時30分~12時

順序	講演題目	所属	氏名	時間(分)
1	流域別の降雨積算効果の評価と雨に関する注意報、警報の基準	福岡	岡 千束	20
2	福岡における降雨強度について	下関	服部 徳一	15
3	一般利用者のための梅雨の統計について	福岡	小島 隆義	15
4	ぐずつき型と宮崎県の雨量について	宮崎	山本 賢三	15
5	低気圧の経路と大分県の降雨分布	大分	糸山 真一	10
6	台風の経路と大分の風雨について	〃	田中 虎治	10
7	地形性降雨の気候的一考察	熊本	山鹿 延	10
8	昭和34年7月における長崎県の豪雨解析	長崎	尾崎 康一	17
8'	人工降雨の研究の現状について	九大	武田 京一 坂上 務	15
9	平均Jetの強度による山口県梅雨量の予報法	山口大	山本 武夫	15
10	下関の風の特性について	福岡	黒木 義秋	15
11	対馬海域の風と波(第2報)古志岐島の風について	〃	浦川 武雄	17
12	西日本の強風について	大分	笠村 幸男	10

第1日(26日)午後13時~17時30分

13	佐賀の海陸風と北東風について	佐賀	島本 準	10
14	台風5914号に伴った波浪について	長崎	城間 恒信	17
15	高潮予報の実験式について	下関	中島 輝之	7
16	九州および山口県のたつまきについて	福岡	峰岸正太郎	15
17	東支那海における不安定線発生箇所について	熊本	木下 正時	15
18	不安定度による雷の局地予報	宮崎	宗 英雄	10

—25頁よりつづく—

700円 舞鶴海岸気象台 川瀬二郎(2) 井野英雄(1)
後藤大喜夫(1) 坂根教閣(1) 吉田実(1) 山崎貞夫(1)400円 長野地方気象台 北出正清(1) 宇田川和夫(1)
百瀬悦也(1) 草間宗三(1)

150円 有線通信課 岩佐宗義(1) 厚木邦彦(0.5)

700円 気象庁海洋課 淵秀隆(5) 増沢謙太郎(1) 安

1960年12月

19	飛行報告よりみた福岡一沖縄間の前線について	板付	八尋 勇	10
20	大火の発生、拡大と気象について	下関	赤井 清康	15
21	中層雲向と天気について	厳原	鬼橋 武治	10
22	富江の天気	富江	藤田 光義	5
23	シークラッターによる海況予報への試み	種子島	大迫 盛夫	15
24	台風の中心とレインバンドの幾何学的関係	〃	大枝 良介 井田 官上	10
25	種子島レーダーで観測したRadio duct について	〃	井田 利規	10
26	レインバンドの走向と移動	福岡	土井 謙二	10
27	降雨セルの移動と上層との関係	〃	井田 秀治	15

第2日(27日)午前8時30分~12時

28	鹿児島における放射量の収支の状態	鹿児島	植村 八郎	15
29	塩塵霧害の研究(第3報) 煤塵量と下層大気との関係	福岡	山田 三朗	20
30	突風の種類とその機構について	〃	〃	20
31	予報法則の探究(第4報)類似天気図の再認識について	〃	植木九州男	17
32	福岡県の統合予報調査(第1報)	〃	加藤 忠 石井 一男	15
33	昭和34年9月以降の桜島の活動について	鹿児島	野田 義男	17
34	桜島火山活動の予測について	〃	東谷 幸男 安井 豊 野田 義男 利光 貞夫	20
35	阿蘇山活動資料について	阿蘇山	山口 弘次	15
36	雲仙温泉と地震について	温泉岳	田畑 七郎	17
37	五島における火山と火山弾	富江	山野 道雄	7
38	霧島(新燃)の微動状況と表面活動との関係	宮崎	長友 久雄	10
39	霧島山麓の造林不成績地における気温の観測結果について	〃	田辺 剛	15

井正(1)

3,700円 大阪管区気象台 大谷東平(2) 石井正語(1) 荻谷長男(1) 高橋信也(1) 佐古武夫(1) 更屋千之(1) 中島治雄(1) 浜田周作(1) 齊藤将一(1) 中島暢太郎(1) 藤範晃雄(1) 奥村慶一(1) 佐藤功(1) 内田浩一(1) 越智暁(2) 稲浦昂(1) 喜田村一男(1) 原田朗(1) 中西盈(1) 大西慶市(1) 成川二郎(1) 梅原康夫(1)

—31頁へつづく—